

第3回 福岡市環境基本計画（第四次）素案策定作業部会

議事要旨

- 1 日時 令和7年3月26日（水）16:00～17:30
- 2 場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール ウェストルーム
- 3 出席者（五十音順、敬称略）

氏名	役職等
猪野 猛	福岡商工会議所 理事・事務局長
菊水 之恵	日本野鳥の会 福岡支部 幹事
小出 秀雄	西南学院大学 学術研究所長
萩島 理	九州大学大学院 総合理工学研究院 教授
林 灯	九州大学 エネルギー研究教育機構 教授
久留 百合子	リエゾンオフィス 代表／消費生活アドバイザー
松山 倫也	九州大学大学院 農学研究院 特任教授
山内 勝也	九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 第四次計画の素案について
- (3) 閉会

5 議事要旨

(1) 開会

環境政策課長あいさつ

(2) 第四次計画の素案について

【事務局】

資料1、資料2、資料3、資料4、資料5について説明

【部会長】

まずは第1章についてご審議いただきたい。

【委員】

P20の2050年の福岡市を取り巻く社会情勢について、もう少し2050年に想定される福岡市の社会情勢をもう少し記載した方がよい。

【事務局】

P13以降の「福岡市の今とこれから」の項で、福岡市の将来推計人口等について記載しているところであるが、改めて記載できる要素がないか検討する。

【委員】

P17の3行目「2050（令和33）年」とあるが、令和32年なので、訂正が必要である。

【事務局】

訂正させていただく。

【委員】

P7の脱炭素に関する説明の中に、日本の温室効果ガス排出量が順調に減っているというトレンドを記載してもいいのではないか。

【事務局】

ご指摘のとおり、国の排出削減量はオントラックということで目標に向けて順調な減少傾向にあり、その旨を追記したい。

【部会長】

次に第2章についてご審議いただきたい。

【委員】

P26の「市民が取り組む行動例」の中段、「宅配サービスを1回で受けとる」で、CO₂排出量が東京ドームの容積で表現されているが、福岡市にあるみずほPayPayドーム福岡の容積で表現してはどうか。

【事務局】

前向きに検討したい。

【委員】

第2章のイメージカラーがピンクで白抜き文字になっているが、色覚多様性の観点で読みやすさは問題ないか。コントラストが低くて読みにくいのではないか。他の章についても確認してほしい。

ページ下部フッターにある四角の意図が不明で、場所によっては文字に重なってしまい読みにくいいため、工夫をお願いしたい。

また、コラムが強い色で本文以上に目立つ状況だが、ディテールが大事なので、調整してほしい。

【事務局】

ご指摘を踏まえ、対応したい。

【委員】

P27の「事業者が取り組む行動例」の一番上、「環境にやさしい働き方を推進する」の概要にテレワークとの記載があるが、テレワークはコロナ後に減ってきているため記載が適切か気になる。また、クールビズ、ウォームビズと記載があるが、年間を通したオフィスカジュアルが浸透してきているので、その状況を踏まえて再考いただきたい。

【事務局】

最新の動向を踏まえて改めて表現を検討したい。

【委員】

P26の「市民が取り組む行動例」については、市民の日常生活に限定して書かれていると思われるが、脱炭素に関しては10年に1回程度訪れる大型耐久消費財の買い換えでエネルギー効率が上がるほうがインパクトが大きいため、再考いただきたい。

また、テレワークについては、取り入れ方次第ではエネルギー消費量の削減に寄与しないという研究もあり、むしろ住宅とオフィスの両方でエネルギー消費が発生して増える場合もあるため、環境にやさしい行動かどうかは注意が必要である。

【事務局】

ライフステージに応じて、例えば省エネ家電に買い換える、リフォーム時に断熱窓を取り入れるなど、CO₂の削減効果が高い行動例を入れるように検討する。

【部会長】

P24、P25 のようなイラストは、市民に「こんなまちなんだ」ということを印象付ける重要な素材。博多湾や今津干潟の生物多様性が伝わるものになっているか。全体として、「ひと・まち・自然が調和し、心豊かに住み続けられるアジアのモデル都市」というキャッチフレーズが直感的に伝わるイラストであればなお良い。

【事務局】

イラストのレイアウトや、どこまで書き込むかは頭を悩ませてきたところ。また、予算がついていないものをどこまで描けるのかとの実情もある。全ての要素を反映させるのは難しいと考えているが、ご意見を踏まえて改めて精査したい。

【委員】

同じくイラストについて、一見して何が特徴かわからない。描かれているものが何かを記載すべきではないか。また、よくある理想像や未来図は本当にそのとおりになるかどうかもわからないものが記載されていると思うが、今回は予算の制約があるのか。

【事務局】

具体的に描き過ぎると、予算上の問題が出てくるので、どこまで描くかは考える必要がある。その一方で、実現したい将来の姿がイメージできるように描きたいので、バランスが難しい。意図するもの1つ1つに説明書きをつけることも検討したが、文字情報過多で見えにくくなるとの懸念があり、現在のイメージで捉えていただく形とした。ご意見を踏まえ再検討したい。

【委員】

将来像であるため、今と違うところがわかるイラストでないと掲載の意義が薄れると思うのでご検討いただきたい。

【委員】

イラストを見たときに、ビルの屋上に緑があるなど、緑が多くなっているように感じるが、その意図があるのかどうか伝わりにくい。わかりやすい表現や、色使いになるよう工夫するとよい。

【事務局】

様々のご意見を踏まえ、総合的に検討する。

【委員】

P28 の最初 3 行が冗長な文章なため整理するとよい。

【事務局】

ご意見を踏まえて修正する。

【部会長】

次に第 3 章についてご審議いただきたい。

【委員】

「CO2」や、「N02」の 2 を添え字に修正したほうがよい。

【事務局】

修正させていただく。

【委員】

P31 の指標の現状値について、市民アンケートの結果ではあるものの、これだけ高い数値だと目標が達成されている印象を受けてしまう。括弧書きで記載のある「そう思う」の数値を主にしてはどうか。全ての指標をそのようにするかは検討が必要だと思うが、P31 の 2 つの指標は特に気になった。

また、P36、P37 の「ライフスタイルの転換の促進」の取組みに記載のある、3R やフードドライブといった言葉は市民に浸透してきているイメージだが、そうではないと考えているエシカル消費について、例えば、コラムにするなどして強調してはどうか。

【事務局】

エシカル消費については、工夫ができないか検討する。

指標の数値については、同じ取り方で統一したほうがよいと考えている。一方でご指摘の点も懸念されるため、括弧書きで肯定的意見のうち、「そう思う」だけの数値を併記し、そ

の数値がどう変化していくかという点も含めて進捗管理していきたいと考えている。

【委員】

「そう思う」の数値の変化にも留意し、進捗管理していただきたい。

【事務局】

指標については、適切に進捗管理を行い、毎年度審議会に報告させていただきたい。

【部会長】

次に第4章についてご審議いただきたい。

【委員】

P75 の中段の文章中、「アンケート調査によると」を修正すること。その他読点がまったくない文章が数か所あるので確認してほしい。

また、本計画は西暦と元号の併記だと思うが、そうっていない点は修正して統一したほうがよい。

【事務局】

ご指摘を踏まえ、誤字等がないか、重ねて精査していく。

【委員】

P63 の指標も現状値が高いので、市民の努力に結びつかないのではないか。

【事務局】

例えば、指標について「市民や企業、行政などによるごみの削減やリサイクルの取組みが進んでいると思う市民の割合」については現状値が 69.2%だが、そのうち「そう思う」は 14.2%と少ないため、これで達成できていると考えるのではなく、まだまだ施策を推し進めていかないといけないという判断になる。

【委員】

市側の受け止めではなく、市民が見たときに数値が高ければ努力しなくてよいという受け取られ方になるのではないか。工夫できるとよい。

【事務局】

初めてアンケートで把握した数値なので、今度どうなっていくかというところをしっかりと見ていく必要があると考えている。

【委員】

P50の「カーボンニュートラルを実装したまちづくり」において、新築や既存建物がZEB、ZEHなど高効率になっているということをビジョンの中に入れられないか検討していただきたい。

【事務局】

ご指摘の点について、ビジョンの【まち】の中に入れられないか検討する。

【委員】

P68の「事業系ごみの減量・資源化」のところに、古紙のことが触れられていない。事業所から相当量排出されているので、記載すべきではないか。

【事務局】

本市では古紙・プラスチック・食品廃棄物を重点3品目として減量施策を進めているので、委員のご指摘どおり記載する。

【委員】

各節において、まず指標を見せて次にビジョンを示すというのはどのような趣旨目的か。これまでその議論はなかったように思う。

計画は将来像を示すものであるので、ビジョンを先に見せることの意義が大きいと思う。ビジョンを先に示し、ビジョンを達成しているかの1つの指標・視点として、各指標の数値を示す、というつくりでもよいのではないか。

【事務局】

ビジョンは将来の目指す姿で、その進捗を測るために指標を立てている。その趣旨でいくと、ビジョンが先に示されたほうがよいということになるため、再考したい。

【委員】

P72の指標について、「絶滅危惧種等の確認種数」という書き方だと、イメージが付きにくい。現状値より目標値が大きいのが、絶滅が危惧される生き物が増えることがいいことなのかと捉えられかねず、不安に思う。

【事務局】

市民が生物多様性についての行動を取ることで、絶滅が危惧される希少種をより確認することができるようになるという意図で、現状値よりも目標値を大きく設定している。

目標値の 300 種という数値については、平成 9 年の調査開始時から 4 年間に確認されていた種数程度に戻すという意図で設定した。

【委員】

「生物多様性の意味を理解し、その保全につながる行動をしている市民の割合」が低いことを踏まえて、理解しやすい表記を検討すべきである。

また、対象を絶滅危惧種に絞ると範囲が狭くなってしまうので、生物の全体数で示した方がよいと思う。

【事務局】

絶滅危惧種等はレッドデータブック等から算出した。生物の全体数の場合、年度によって調査の実施有無があり、数値のばらつきが大きいため、毎年実施している絶滅危惧種等の確認種数を用いたい。

また、分かりにくいとのご指摘を踏まえ、表現は検討する。

【委員】

先ほど議論があった、指標とビジョンの順番について、市のマスタープランは目指す姿、市民意識、現状と課題の順に記載していることから、これを参考にしてはどうか。

【事務局】

ご指摘を踏まえ検討する。

【部会長】

次に第 5 章についてご審議いただきたい。

【委員】

写真が多いが小さく、情報量が多い。もう少しゆとりを持たせた方がよい。また、本文があって、その下に写真という構成だが、写真の内容が説明不足で唐突な印象を持った。

【事務局】

この章は、今回の計画で統合する福岡市環境教育・学習計画のスタイルに合わせているものだが、より見やすくなるように工夫したい。

【部会長】

資料編を含め、全体について何かご意見はあるか。

【委員】

P94の図は独特に感じる。各主体の連携を示しているはずなのに、矢印は一方向にしか出ていないので、市民や事業者、行政が相互に協力するということが示せていないのでは。

【事務局】

現行の福岡市環境教育・学習計画の図に差し替えさせていただく。

【部会長】

他に意見がないようであれば、本日の議論を以上とする。

ご意見を踏まえた素案への反映方法については、部会長に一任いただき、事務局と調整のうえ、次回作業部会で修正案をお示しさせていただくことでよろしいか。

(異議なし)

(3) 開会

以上